

2024年10月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは11月9日(土)で、テーマは「赤い実、食べた?」です。ぜひご参加ください。11月1日(金)の8時30分から電話での申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は10月26日(土)です。

## 10月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→鳥の博物館
- 観察日時/天気：2024年10月12日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数：大人7名
- 市民スタッフ：5名(伊東茂子、石原直子、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子)
- 鳥博職員：1名(村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む

【鳥類】ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【甲殻類】サワガニ 【軟体動物】ミスジマイマイ 【環形動物】シマミミズ

【昆虫】バッタ目：モリオカメコオロギ、カネタタキ、オンブバッタ、アオマツムシ/カマキリ目：チョウセンカマキリ/チョウ目：ツマグロヒョウモン(幼虫)、ホウオウジャク(幼虫)、イチモンジセセリ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、ホタルガ、ナガサキアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キタテハ、キタキチョウ、チャバネセセリ、スジモンヒトリ(幼虫)、ヨトウガ、タケノホソクロバ/ハチ目：コガタスズメバチ、ツチバチの仲間/コウチュウ目：アオオサムシ、ナミテントウ、クロウリハムシ/アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ/トンボ目：マイコアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ/カメムシ目：ホシハラビロヘリカメムシ、アオバハゴロモ/ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ

【クモ】オニグモの仲間、コガネグモの仲間

【タケ・ササ】イネ科：モウソウチク、マダケ、アズマネザサ、ラッキョウヤダケ(ヤダケの変種)

【草の花】ヒユ科：ヒナタイノコヅチ、イノコヅチ、イヌビユ/イラクサ科：カラムシ/マメ科：ヤブマメ/ハエドクソウ科：ハエドクソウ/イネ科：チヂミザサ/キク科：トネアザミ、ブタナ、シロバナセンダングサ、セイタカアワダチソウ/スミレ科：スミレ/カタバミ科：アカカタバミ/トウダイグサ科：コニシキソウ/タデ科：ハナタデ、イヌタデ、ミズヒキ/ツユクサ科：ヤブミョウガ

【木の花】シソ科：ポタンクサギ

【実】アサ科：ムクノキ/バラ科：ボケ/シソ科：クサギ

# 2024年10月の観察アルバム



今回のテーマは「タケってどんな植物？」でした。香取神社で見られるモウソウチクとマダケの2種をじっくり観察しながら、タケの形態や生態を開説しました。鳥はモズの高鳴きがよく聞こえ、植物はタデの仲間や“くつつき虫”がたくさん見られ、秋らしい観察会となりました。また館内では簡単な竹細工体験も行いました。



今月の案内人 村松 和行



①道端のスミレを食べるツマグロヒョウモンの幼虫



②根元に皮が残っている1年目の若いマダケ

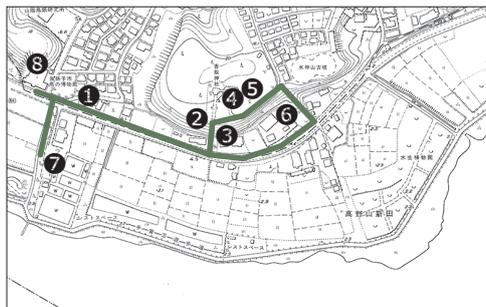


③国内最大のタケで、もっとも多く見られるモウソウチク



④突起部分が動物に付着して種子散布をするミズヒキ

## 歩いたルートと観察した生き物



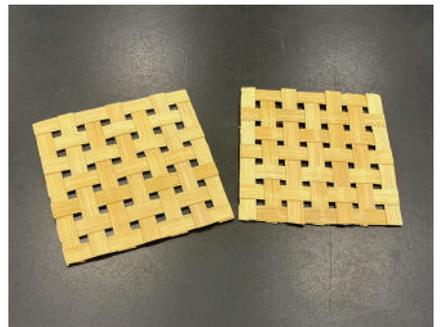
⑤秋の代表的な花であるイヌタデ



⑥土壌環境が悪く、根がむき出しになったモウソウチク



⑦稈（かん）の部分が膨らむのが特徴のラッキョウヤダケ（ヤダケの変種）



⑧参加者の皆さんに作っていただいたマダケの身を使ったコースター

## 今月の鳥 スズメ（スズメ目スズメ科）

昔話「舌切り雀」で、スズメのお宿は竹やぶにありました。昔は今よりもスズメの個体数は多く、物語に出てくる竹やぶには大きな埴（ねぐら）があったのかもしれない。

スズメとタケは「竹に雀」と言われ、日本画や家紋と一緒に描かれることが多い組み合わせです。子孫繁栄や家内安全の象徴とされるスズメと繁殖力が強く成長が早く、冬でも青々しいタケは縁起が良いとされています。



頬の黒い斑が特徴



餌をねだるスズメのヒナと親鳥